

# メイトルのつばやき

No.21



## 夏休みの旅行

みなさんこんにちは！

最近とても涼しくなり、夜には微かな風を感じますね。ようやく、秋の季節が始まりました。私は、いつも日本の秋の美しさに深い感銘を受けます。紅葉の光景は本当にすてきなものだと思います。そして「わあ、今、こうして日本に住むことはとてもラッキーなこと！」と私は独り言をつぶやいています。

今回は、夏休み中のお話です。7月に入ってから、私は夏休みのことについて考え始めました。「どこに行こうか・・・」深く考えました。「海の近くに遊びに行こう！」と決めました。夫も海が大好きなので「ぜひ、海へ行きたい」と賛成してくれました。8月末に私たちは夏休みを

取り、息子のゾハーと一緒に淡路島まで行ってきました。行く前にインターネットで淡路島についていろいろな情報を調べました。その中で、



日本書紀では、淡路島が日本列島の最初であると明記されているという情報を見つけました。「いい所かな・・・」と思い、ますます行きたくなりました。そして、着いたホテルの壁には「日本のルーツ 国生み神話」と書かれた額が掛けてありました。

『昔、高天原という天上の国に、大勢の神々が住んでいた頃。神々は「まだ脂のようにドロドロとしている下界を、人が住めるような場所にするように」と、イザナギ・イザナミの二柱の神に告げました。大役を受けた二柱の神は、天と地との間にかけてた天の浮橋の上に立ち神々から授かった「天の沼矛」で下界をぐるぐるとかきまぜました。次第にこおる、こおると煮えたぎってくる下界。二柱の神が下界から矛を引き上げると、その矛の先から塩のしずくがしたたり落ち、だんだんと積もり固まって島となりました。これが「おのころ島」です。

二柱の神は島に降りると、二羽のセキレイに教えられた方法で結婚の儀式を行い、それから協力をして次々と国を生み出していきました。まず、一番最初に淡路島、次いで四国、九州、隠岐、壱岐、対馬、佐渡、そして最後に大倭豊秋津嶋（本州）が生まれました。これを大八島の国といいます。

日本はこうして誕生しました。』すごい、と私は思います。

さて、旅行期間中、幸いにも天気にも恵まれました。

湿度もそんなに高くありませんでした。最初の日、朝5時に出発しました。八百津から淡路島まで5-6時間ぐらいかかりますが、赤ちゃんを連れて行くので早く出発したほうがいいかなと思いました。

途中で3回、4回の休憩を取りました。淡路島の明石海峡大橋に着きました。その大橋は本州と淡路島を結ぶという橋です。1998年に開通した、世界最長の吊り橋です。淡路島の側の見晴らしの良い場所から明石海峡大橋のすばらしい光景を眺め、本当に感動しました。

今回の旅行は、ほとんどの時間を海で過ごしました。毎日、海で日没を見たり、泳いだり、ビーチでのんびりしたりしました。淡路島の玉ねぎをいっぱい食べたべました。

そして、鳴門渦を見ました。淡路島と四国を結ぶ鳴門大橋の足下です。雄大な鳴門海峡の太平洋と瀬戸内海から激しい潮の流れが滝のように押し寄せ、ぶつかり合っているのが「渦潮」です。

大潮の最速時には時速20キロにもなり、世界で3番目の速さと言われています。

最後に淡路島人形座も訪ねました。私は日本の人形浄瑠璃、文楽が特に好きです。イスラエルの大学では文楽についてたくさん学んできました。そして、名古屋大学でもその話題について研究しました。本当にすばらしいものだと思います。明治時代、淡路島では多くの人形座がありましたが現在一つしか残っていません。伝統的な美術もだんだん珍しいものになってきています。淡路島の人形座では人形の動き方について説明をいただき、文楽の演劇も見ました。そして、人形と記念写真を撮り、握手をしました。その演劇を見ながら、日本の伝統的な文化が本当にすばらしく洗練されたものだと私は思いました。



9月17日にユダヤ人の新年のお祝いがありました。今年には5773年になります。これからはじまる新年はみなさんのご健康とご多幸を心よりお祈り致します。

メイトルさんへの質問は  
meital@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！